

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

| | | | | | | | | | |
|----------------|------------------------------------|-------------|----|-----|---|------|---------------------|-----|----|
| 授業科目名 科目コード | ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ) 264046-14000 | | | | | 担当教員 | 坂井 一貴 (サカイ カズタカ) | | |
| 科目区分 | ゼミナール科目 | 必修・ 選択区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 4年次 | 開講期 | 通年 |
| 科目特性 | 地域志向科目／協同学習型 AL／課題解決型 AL | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ① 授業のねらい・概要 | | | | | | | | | |
| <p>右肩上がりではない社会，および情報化が進展し社会変化が大きい現在において，課題に対して客観的なデータを基に，解決できるのではないかという具体的な案を考え，実現するための流れ，手法について修得することを目的とする。</p> <p>具体的には，行政や民間シンクタンク等が多くの統計データ，アンケート調査を利用し，データ処理を行いそこから有用な情報を見つける技術力・思考力を身につける。</p> | | | | | | | | | |
| ② ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | | | | |
| 地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を養う。 | | | | | | | | | |
| ③ 授業の進め方・指示事項 | | | | | | | | | |
| <p>地域や社会における課題を客観的データおよび情報技術を利用し解決策を考えていく。</p> <p>そのためには，日常的に社会に関心を持ち情報収集をすることが必要であることから，新聞やニュース・政府 Web サイトなどの有用な情報ソースを日々チェックする。併せて，成果を出そうとすればゼミ以外の時間帯も利用して主体的にデータ分析やその結果に対するディスカッション等を進めることが必要である。</p> <p>また，オフラインだけでなく slack を用いたオンライン上での活動も予定している。</p> | | | | | | | | | |
| ④ 関連科目・履修しておくべき科目 | | | | | | | | | |
| 統計学，Excel や PowerBI などのデータ処理ソフトウェア・ツールなどを主体的に学修する。 | | | | | | | | | |
| ⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安 | | | | | | | | | |
| <p>(i) 【主体性】自分が意識を高めて，情報を取捨選択できる判断力を持ち，その判断に責任を持って率先して行動できる。</p> <p>(ii) 【計画性・スケジュール管理】具体的な計画を立て，定期的に進捗状況を確認し，リスケジュールリングを行い，予定通り計画を完了できる</p> <p>(iii) 【データ収集・加工】各種統計データなどを適切な供給先を選択して，データを収集し，有用な情報として加工することができる。した上で社会課題に対しての具体的な解決案を自ら考えることができる。</p> <p>(iv) 【課題解決力】課題に関係する地域・関係者・資源（資金・人材）・諸条件を総合的に考慮した上で，第三者も納得する解決案を考えることができる。</p> <p>(v) 【プレゼン能力・表現力】見やすいスライドを作成し自らの言葉で聴衆に伝えられる</p> | | | | | | | | | |

| |
|---|
| ⑥ テキスト（教科書） |
| 特になし 「政府統計の総合窓口 e-Stat」や「RESAS 地域経済分析システム」などの Web サイトを主に活用する。 |
| ⑦ 参考図書・指定図書 |
| Microsoft Excel®の関数辞典や PowerBI などのツール，またはプログラム言語に関する書籍全般。 |

| ⑧ ループリック | | | | | |
|------------------------|---|---|--|---|---|
| 評価項目 | 評価基準 | | | | |
| | S | A | B | C | D |
| | 到達目標を越えたレベルを達成している | 到達目標を達成している | 到達目標達成にはやや努力を要する | 到達目標達成には努力を要する | 到達目標達成には相当の努力を要する |
| (i) 【主体性】 | Aの事柄に加えて、その行動が第三者から見ても創意工夫があると評価される行動ができる。 | 自分が意識を高めて、情報を取捨選択できる判断力を持ち、その判断に責任を持って率先して行動できる。 | 指示されたことは、特にやりたいことではなかったとしてもやるかなりに十分高い意識をもってやりきる。 | 指示されたことは、教員の指導がなくても期限までに最低限やりきる。 | 指示されたことは、教員の指導の下で期限までにやりきる。チームとしての活動に参加しないフリーライダーである。 |
| (ii) 【計画性・スケジュール管理】 | Aの事柄に加え、当初から余裕あるスケジュールや役割分担を決め、チーム全体で確認・管理できるような体制をつくり、問題があった場合も即座に対応できる。 | 計画を立て、定期的に進捗状況を確認し、リスケジュールリングを行い、余裕をもって締め切り期限内に完了できる。 | 計画を立てたが、その計画通り一部進まなかったため、リスケジュールリングを行い、締め切り期限内に完了できる。 | 計画を立てたが、その計画通りにはほぼ進まなかった。ただし、締め切り期限内に完了はできる。 | 計画を立てたが、締め切り期限内に完了できない。 |
| (iii) 【データ収集・加工】 | Aの事柄に加えて、PythonやRなどのプログラミング言語も活用し効率的なデータ分析、加工ができる。 | Bの事柄に加えて、分かりやすいグラフの形式、色など自ら考えグラフ化（可視化）できる。 | 自らの力のみで、ExcelやPowerBI等のツールを用いて目的や必要に応じたデータ、情報に加工し、分かりやすい表として表現できる。 | 複数の資料から、目的や必要に応じたデータ、情報を比較検討し最良の1次資料まで遡り取り出すことができる。 | 目的や必要に応じたデータ、情報を取り出すことができるが、加工ができない。 |

| | | | | | |
|---------------------|--|--|---|---|--|
| (iv) 【課題解決力】 | Aの事柄に加え、第三者もぜひ協働したいと申し出る水準の解決案を考えることができる。 | 課題に関する地域・関係者・資源(資金・人材)・諸条件を総合的に考慮した上で、第三者も納得する解決案を考えることができる。 | 課題に関する客観的な状況から本質的な解決案を考えることができる。 | 課題に関する客観的な状況から解決案を考えることができる。ただし、その課題を解決すると別の課題が生まれる傾向にある。 | 課題に関する客観的な状況から外れた解決案しか考えることができない。 |
| (v) 【プレゼン能力・表現力】 | Aの事柄に加えて、聴衆のリアクションに応じて臨機応変に説明内容を追加・削減し、伝えたい内容を高い水準で聴衆に理解させることができる。 | 見やすいスライドを作成し、原稿を見ることなく自らの言葉で、与えられた時間内で伝えたい内容を聴衆に理解させることができる。 | 見やすいスライドを作成し、メモを多少見ながらも自らの言葉で、与えられた時間内で伝えたい内容を聴衆が理解させることができる。 | 見やすいスライドを作成し、与えられた時間内で、伝えたい内容を聴衆に理解させることができる。 | 見やすいスライドが作成できなかつたり、与えられた時間内で、伝えたい内容を聴衆に理解させることができなかった。 |

| ⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法 | | | | | | | | |
|------------------------------------|--|------|----|------|-------|-----------|-----|------|
| 学習到達目標（評価項目） | 試験 | 小テスト | 課題 | レポート | 発表・実技 | 授業への参加・意欲 | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | 40% | 20% | | 40% | 100% |
| (i) 【主体性】 | | | | | | | 20% | 20% |
| (ii) 【計画性・スケ管理】 | | | | | | | 20% | 20% |
| (iii) 【データ収集・加工】 | | | | 20% | | | | 20% |
| (iv) 【課題解決力】 | | | | 20% | | | | 20% |
| (v) 【プレゼン・表現力】 | | | | | 20% | | | 20% |
| フィードバックの方法 | 1か月に1度のペースで各項目の状況についてコメントを全体にする。slackを通じて個別にコメントをする。 | | | | | | | |

| ⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等） |
|---|
| 1年間に渡る活動で当初計画から実際の進捗状況の差異が生じることから、月1回程度の進捗状況の確認とリスケジューリングの促しによって、年度当初の計画以上の成果を達成できる仕組みづくりをする。 |

| ⑪ 授業計画と学習課題 | | | |
|-------------|-------------------------------|--|-----|
| 回数 | 授業の内容 | 授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物） | |
| 1 | ゼミの進め方とオンラインツールの確認 | オンラインツールの準備 Excel等の必要な 知識・技能修得のための学修 | 60分 |
| 2 | 政府統計サイトの確認と データ収集・CSVデータ処理 | Excel等の必要な 知識・技能修得のための学修 地域社会の課題を複数考える | 60分 |
| 3 | 政府統計サイトの確認と データ収集・CSVデータ処理 | Excel等の必要な 知識・技能修得のための学修 地域社会の課題を複数考える | 60分 |
| 4 | 地域社会の課題についてのディスカッション | 課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする | 60分 |
| 5 | 地域社会の課題についてのディスカッション | 課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする | 60分 |
| 6 | 地域社会の課題についての解決案仮説設定 | 課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする | 60分 |
| 7 | 課題解決案を導き出すための 年間スケジュール作成 | 課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする | 60分 |
| 8 | データ収集および加工 | 収集したデータに意味を 持たせられるように加工する | 60分 |
| 9 | データ収集および加工 | 収集したデータに意味を持たせ られるように加工・可視化する | 60分 |
| 10 | 地域社会の課題についての解決案仮説検証 | 課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする | 60分 |
| 11 | 追加のデータ収集および加工 | 収集したデータに意味を持たせ られるように加工・可視化する | 60分 |
| 12 | 追加のデータ収集および加工 | 収集したデータに意味を持たせ られるように加工・可視化する | 60分 |
| 13 | 地域社会の課題についての解決案仮説再検証 | 課題解決に関連するデータを 各種サイトから調べ ダウンロードする | 60分 |
| 14 | 追加のデータ収集および加工 | 収集したデータに意味を持たせ られるように加工・可視化する | 60分 |
| 15 | 地域社会の課題についての解決案仮説再検証 | 収集したデータに意味を持たせ | 60分 |

| | | | |
|----|----------------------|---|-----|
| | | られるように加工・可視化する | |
| 16 | 追加のデータ収集および加工 | 収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する | 60分 |
| 17 | 地域社会の課題についての解決案仮説再検証 | 収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する | 60分 |
| 18 | 追加のデータ収集および加工 | 収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する | 60分 |
| 19 | 地域社会の課題についての解決案仮説再検証 | 収集したデータに意味を持たせられるように加工・可視化する | 60分 |
| 20 | 成果発表会に向けた資料作成 | 発表用スライドの作成 | 60分 |
| 21 | 成果発表会に向けた資料作成 | 発表用スライドの作成 | 60分 |
| 22 | 成果発表会に向けた発表準備 | 発表時に原稿を持たず 自らの言葉で具体的に 説明できるための準備をする | 60分 |
| 23 | 成果発表会に向けた発表準備 | 発表時に原稿を持たず 自らの言葉で具体的に 説明できるための準備をする | 60分 |
| 24 | 成果発表会に向けた発表準備 | 発表時に原稿を持たず 自らの言葉で具体的に 説明できるための準備をする | 60分 |
| 25 | 活動報告書の作成 | 読み手に確実に伝わる 独り善がりではない 報告書にするための推敲を行う | 60分 |
| 26 | 活動報告書の作成 | 読み手に確実に伝わる 独り善がりではない 報告書にするための推敲を行う | 60分 |
| 27 | 活動報告書のレビュー | レビューによる指摘点を 報告書に反映させる | 60分 |
| 28 | 活動報告書の作成 | レビューによる指摘点を 報告書に反映させる | 60分 |
| 29 | 活動報告書のゼミ内発表会 | 今年度の活動を振り返り、 全体として、または個人としての 改善点を洗い出す | 60分 |
| 30 | 1年間の振り返り | 長期で何か物事を取組む際に どのようなことに注意して 取組むべきかを考え社会人に 備える | 60分 |

⑫ アクティブラーニングについて

ゼミのため、すべてのアクティブラーニング項目が該当するが、本ゼミでは特に、専門的知識・技能を活用する能力、情報収集・分析力 について強化およびそれを評価する。

統計データを活用し現在も未解決な社会課題に対して、ゼミ全体で協同して情報収集・分析し若者としての視点を生かして解決案を策定することで論理的思考力・批判的思考力を養う。

併せて、データを加工するためには専門的な知識・技能を用いなければならず、それらが仮に不足しているようであれば主体的に学修することで補い、それらの能力を適切な水準まで持っていく。

ゼミのため、担当教員はあくまでもファシリテーターとして関与し、調査・研究は学生主体で行う。

※以下は該当者のみ記載する。

| |
|--------------------|
| ⑬ 実務経験のある教員による授業科目 |
| 実務経験の概要 |
| |
| 実務経験と授業科目との関連性 |
| |